

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習VII（家事）演習		必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤 久・石岡 和志・脇山 園恵	開講期	2年後期	単位数 1

【授業の主題と目標】

自立支援の一歩は家事から始まるといわれるほど、衣食住は生活するために重要である。この授業では、家事技術が自分自身の生活に直結していることを理解し、高齢者・障害者の日常生活に欠かせない家事援助の知識と技術を修得することを目標としている。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 オリエンテーション・家事支援の意義と目的① (1. 自立生活を支える意義と目的) (工藤・石岡・脇山)
- 第 2 回 家事支援の意義と目的② (2. 家事支援におけるアセスメントと ICF の理解) (石岡・脇山)
- 第 3 回 家事に参加することを支える介護① (参加を支える介護の工夫、配食サービスの利用) (脇山・工藤)
- 第 4 回 家事に参加することを支える介護② (意欲を出す働きかけ、買い物、家計) (脇山・工藤)
- 第 5 回 家事の介助の技法① (掃除・ごみ捨て) (工藤・石岡)
- 第 6 回 家事の介助の技法② (裁縫) (工藤・石岡)
- 第 7 回 家事の介助の技法③ (裁縫) (石岡・脇山)
- 第 8 回 家事の介助の技法④ (洗濯) (石岡・脇山)
- 第 9 回 家事の介助の技法⑤ (特別食の調理) (脇山・工藤)
- 第 10 回 家事の介助の技法⑥ (特別食の調理) (脇山・工藤)
- 第 11 回 家事の介助の技法⑦ (調理技術の実践) (工藤・石岡)
- 第 12 回 家事の介助の技法⑧ (調理技術の実践) (工藤・石岡)
- 第 13 回 家事の介助の技法⑨ (調理技術の実践) (石岡・脇山)
- 第 14 回 家事の介助の技法⑩ (調理技術の実践) (石岡・脇山)
- 第 15 回 他職種との連携 (工藤)

【授業実施方法】

演習形式で行なう。

【授業準備】

高齢者や障害者の食事について専門書などで予備知識を備えておいてください。

【主な関連する科目】「介護の基本」「社会福祉概論 I」「高齢者福祉論 I」「障害者福祉論 I」

【教科書等】

介護福祉士養成校協会編集委員会 新・介護福祉士養成講座 第4版「生活支援技術 I」 中央法規

【参考文献】

介護福祉のための家政学実習、建帛社

【成績評価方法】

提出物（裁縫・調理・レポート等）70%、平常点30%で総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

家の基本的な技術である裁縫・調理・掃除など苦手な学生がいると思われるが、この授業を通して工夫しながら家事の楽しさを学び、また実際の現場で活用する場面があるため関心を持って授業に臨むことを期待する。家政実習室利用時は、中履き、エプロン等を準備してください。